

第8回議会報告会開催結果

開催日程

開催日	説明班	会場	所在地	参加者数
平成28年11月10日(木)	第1班	茅広江地区市民センター	茅原町	30人
	第2班	橋西地区市民センター	川井町	8人
	第3班	神戸地区市民センター	垣鼻町	14人
	第4班	小野江コミュニティセンター	小野江町	16人
平成28年11月11日(金)	第1班	豊地農耕センター	嬉野下之庄町	25人
	第2班	松尾地区市民センター	丹生寺町	14人
	第3班	櫛田地区市民センター	豊原町	13人
	第4班	大石地区市民センター	小片野町	16人
平成28年11月14日(月)	第1班	松ヶ崎地区市民センター	松崎浦町	23人
	第2班	有間野集会所	飯南町有間野	24人
	第3班	飯高総合開発センター	飯高町七日市	30人
	第4班	朝見地区市民センター	大宮田町	12人

議員の班構成

1班	○田中 力	楠谷さゆり	沖 和哉	植松 泰之	堀端 脩	今井 一久	西村 友志
2班	○久松 倫生	松岡 恒雄	坂口 秀夫	野呂 一男	大久保陽一	永作 邦夫	中島 清晴
3班	○松田 俊助	米倉 芳周	中村 良子	山本 節	川口 保	海住 恒幸	水谷 晴夫
4班	○大平 勇	西口 真理	深田 龍	山本 芳敬	濱口 高志	松田 千代	前川 幸敏

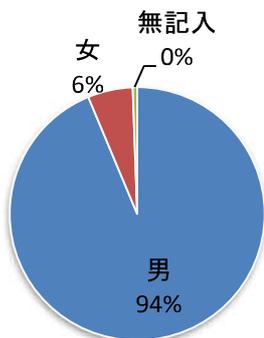
○は各班の代表者

第8回議会報告会アンケートから

○ 回答者総数:176人 (回収率78.2%)
 ○ 配付人数:225人 (平均18.8人/会場)

性別

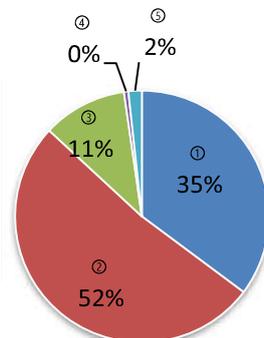
性別	人数(人)
男	165
女	10
無記入	1
合計	176



報告内容について

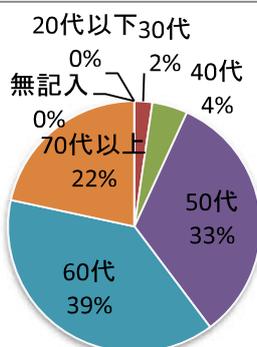
設問	人数(人)
① よくわかった	62
② ある程度わかった	91
③ あまりわからなかった	19
④ 全くわからなかった	1
⑤ 無記入	3
合計	176

(複数回答)



年齢

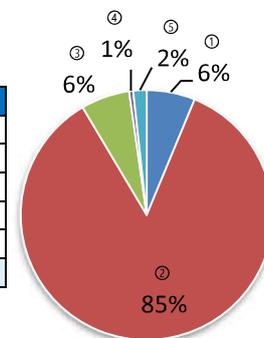
年齢	人数(人)
20代以下	0
30代	4
40代	8
50代	58
60代	68
70代以上	38
無記入	0
合計	176



説明時間について

設問	人数(人)
① 長かった	11
② ちょうど良かった	151
③ 短かった	11
④ その他	1
⑤ 無記入	3
合計	177

(複数回答)

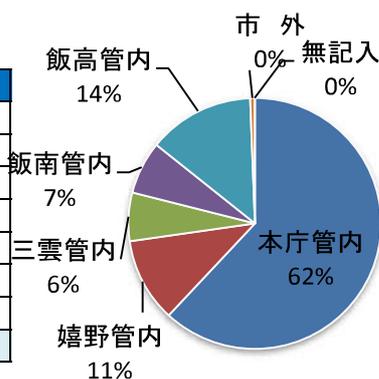


【その他の意見】

ちょっとした説明を交えて説明してほしい

住所

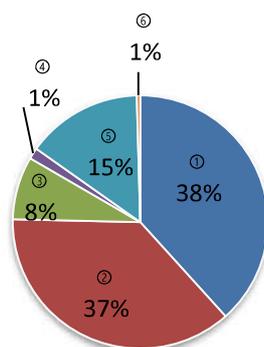
住所	人数(人)
本庁管内	109
嬉野管内	19
三雲管内	11
飯南管内	12
飯高管内	24
市外	1
無記入	0
合計	176



周知について

設問	人数(人)
① チラシ、回覧版	81
② 広報まつさか、市議会だより	78
③ 市議会ホームページ	17
④ ケーブルテレビ	3
⑤ その他	31
⑥ 無記入	1
合計	211

(複数回答)



【その他の意見】

自治会
 住民協議会
 友人・知人
 新聞

第8回議会報告会のアンケートでいただいたご意見・ご感想は以下の通りです。

【議会報告会全般について】

<p>保険料の滞納状況について 24億円は、あまりにも多いと思います。税の公平性から当然納めるべき保険料を納めていない人に対して、どのように滞納整理をするかを問うている。税と保険料は同じで、取るべきものは取る努力をもっとすべきと思います。でないと、納めない者が得することになります。放置すればすぐに赤字になります。意見は言えませんでした。時間がなく、多気中の組合立の問題もよろしく願います。3人の議員さんは、責任をもって松阪市の立場にたって責務を果たしていただくようお願いします。組合立は大変むずかしい問題が多いです。よろしく願います。</p>
<p>よかった。又、やって下さい。</p>
<p>議会報告会の内容はメリハリがなく、何がポイントがわからなかった。</p>
<p>保険料の滞納について 一人暮らしの認知症のお年寄りが保険料を滞納されることがあるのではないのでしょうか？ 私の母も、一人暮らしをしていて、気がついた時には、滞納していて、あわてて返済したということがありました。いろいろな立場で考えて対処していただきたいと思います。通帳からの引き落とし手続きすら、自分ではできないということで、できれば、利用する銀行との連携もっていただけたらと思います。 田舎は住みにくいです。交通の便もあります。それ以上に若い人が住みたくない理由、それは、田舎ならではの付き合いの多さです。古い事業を重視しすぎて、付き合いに振り回されている状態です。これでは息子に、ここに残ってほしいとは、とてもじゃないけど言えません。お年寄りも。大切に、それ以上に若い人にやさしい田舎にしていかなければ、若い人が住むはずがないという事を、早く気がついてほしいと思います。町づくり協議会費用も無駄です。その費用の使い方が無駄、そのお金をもっと子育て世代に使っていくべきだと思います。</p>
<p>・白黒のコピーだと、文字が認識できない（数値が小さい）。</p>
<p>参加者 一般6、市関係8人？と思いますが、議員報告会としては参加者が少ないと思いますが、広報（報告会）をやりかたをもう少し考えてはどうですか（多く参加してもらえるように）。</p>
<p>今後も継続して、このような報告会の開催をお願いします。</p>
<p>せっかく市民の事を聞ける時間なのに、質問の規制が多く、聞きたいことが聞けなかった。</p>
<p>意見交換はそれなりに有意義でした。報告事項に関する質問はしづらく感じた。</p>
<p>議会の仕事が少しわかりました。ありがとうございました。</p>
<p>丁寧に説明していただき、よくわかりました。ありがとうございました。</p>
<p>いろいろ意見を聞いてよかった。</p>
<p>提案理由等について内容を精査されていないような感じが見受けられた。 なぜ、どうして、といった観点から議論されてはどうでしょうか？</p>
<p>個人情報保護の立場から明確な解答が得られない質疑があり残念。報告会に参加する市民の数が少なかったが、今後は積極的に参加を呼びかけて動員をかけられてはいいかと思う。</p>
<p>報告会には、しっかりと調べ回答を。</p>
<p>がんばって下さい。</p>
<p>報告会の地域への周知を考えていただきたい。真剣に取り組んで下さい。</p>

・行政へのチェック機能については充分議会が果たされているものと感じた。
・政策立案機能についての報告については無かったように思われる。
・可能ならば各議員さんから松阪市を今後どのようにしていきたいのか、夢などをお聞かせ願えれば！有名百貨店や誘致等、夢で終わらせても良いものではなく。例えば、問題解決型の市庁舎の移転等（松阪駅前へ）。お金はかかるが、色々なメリットが生まれるはず。

教育関係者も出席して欲しい。

・防災関係について
東南海地震等が予想されているが、防災倉庫の様な物入れを各地区に配置するというような事は考えていないのか、また水の保管等はしないのか。水道は断水になる事を考えると期待できない。道路も土砂崩れで通行不能ということも考慮すべきではないか？避難場所になっている自治会の建物に毛布1枚ない現状を議会人は知っているのか。議会として提案を望みます。

今後ともよろしくお願いします。

聴衆者の出席が大変少なく折角のよい機会、忙しい議員さんがご来席下さったのに聴衆者の一人として誠に申し訳なく思います。お疲れのところ態々来石（大石地区）下さり有難うございました。気をつけてお帰り下さい。

参加者も多く活発な意見交換もあってよかったです。

はじめて参加させていただきました。熱気をおびた意見交換もあり、参加者もとても勉強していらっしゃる后感心しました。これからもしっかりと拝見させていただきます。

委員の方々の返答は個々にやさしく、心配りしながら答えてくれていました。

ふだん、見聞きしない内容であり、理解できかねるが、定期的に報告を受けることは良い。

7人の議員さんへ

本日はありがとうございました。毎日の生活に、もっと為になる話もあるといいと思います。

今回このような議会報告は初めて参加したが、専門用語等も多く理解しづらかった。

決算報告についての議会報告は、一方通行にならざるを得ない。地域の要望を聞く機会が必要である。

9月の議会報告という形であったように思った。市民は、沢山知りたい、沢山質問したいと思っている。こんな機会は滅多にないので、できれば、時間的にはきびしいかも知れないが、ひざ詰めととん議論したいと思う。

年2回お願いします。

潜在専門職トレーニング事業費に65万519円かけ、復職者が数名というのは、いかがなものかと思えます。現実仕事を楽しいものにしなくては。

報告会については、よくわかりやすいが、これは議員の活動実績の議会報告で、いかに予算が正しく使われているか、私達は頑張っている報告はよくわかるが、私達山村に住む者は、費用対効果等を前面に出して松阪中心から見て中山間地域は見捨てられおります。中学校が無くなり、保育園がなくなり、農協、林業が立ち行かなくなっております。中央から見ると切り捨てられているように思います。地元議員以外も山ほど感心を持っていただきたい。

歳出の性質別円グラフを添付されたい。市債残高の減少や経営収支比率の数値減等健全財政状況は評価できるが、真に必要な事業（地域の要望）を推進されているのか。住民の期待に添えておられるのか？

普段は地元選出の議員としか話をしないので、こういった機会はとても貴重な経験だと思います。これからも継続して行って欲しいと思います。

疑問多し。内容良好。

幼、小、中施設施設管理運営事業費に関して、クーラーと耐震費用に使われているが、扇風機の台数を増やして、クーラーの使用期間を短縮したらどうか？耐震補強も大切であるが、地震が起きて、津波が生じたとき、津波でんでんご（各自が一刻も早く標高の高い所へ逃げる）が大切である。

次に、新健康センター建設に関して、鉄骨造りであるが、鉄筋コンクリート造りが多い中で何故、鉄骨造りを採用したのか？最近、鉄骨造りでも技術が進歩しており、大きな空間がとれるようになってきたとの議員の返答。

三つ目は、ベルラインの廃止（12月19付）は遅すぎる。代替バスの予算1,085万円は否決されたのは評価できる。

4つ目に、私は議員定数は4名減らして、24名が適当と考える。

【議会について】

中山間や山間部の人口減少地にたいしても、しっかり配慮のできる議会であってほしい。

定数28人は妥当だと思いますが、議員の質を上げる努力をしていただきたい。個人的にどのような活動をしているのか全くみえてこない議員がたくさんいる。地域の総会にみえても最初の挨拶だけで帰るのは意味がない。

議員定数のあり方について

議員28人へのアンケートも重要と思いますが、市役所職員へのアンケートが重要と思いますが？

28人になった人数の合併とあわせ、整理された内容を教えてもらいたい。政務活動費については、25,000円×12ヶ月で30万円であるが、個人通帳へ振込されているが、事務用品、備品等事務局で対応されているので現物支給であり、適正と考える。

予算については一部であるので、全部が不明。

議員定数については、中山間地域の特例を考えてほしい。（数字で平均1/6,000人とすると、飯高の人口4,000人で、選出できないこととなる。）

議員定数の件→定数を減にし、20名ほどに。

政務活動費の支給が会派である事から、使いづらく60%の執行率となっている。会派支給から個人支給とし、広報紙等へも使えるよう改善してはどうか？今の状況であると頑張っている議員ほど金がかかる。政務活動費も月5万としても良いのではないかと？

【議員について】

私は、議員は各々政策についてもっと勉強してほしいと感じた。例えば、新健康センター建設費について、鉄筋造りと、鉄骨コンクリート造りの利点と不利点を理解し、工事費の相違をすぐに言えるように勉強してほしい。設計者から説明がないからわからないでは困る。私は後半部分の定数の在り方に関しては、有識者の検討もあり、これから市民への意見聴取会を開催して、市民の意見を聞いてほしいと考える。私は、体育運動会に関して、競争させて順位を決めることには反対である。私は子どもは各々の能力が違って当たり前であり、点数で区別するのはまちがっている。子どもの才能を伸ばすことが、教師の責任であり、能力であると思う。

松阪市民のやる気に火をつける様な議員提案をして頂き、市職員の既成概念を破って欲しい。

議員は市民が選ぶが、なった議員は自覚をもって仕事をしてほしい。

市会議員の先生方頑張れ。質問に対する市職員の解答が不満がある時は、自分の質問に対する明確な回答があるまで頑張ってもらいたい。丸められてはならないと思う。テレビも観ています。

議員の皆様方、今後しっかり働いて下さい。御願い致します。

【その他】

11月の中頃から12月にかけて道路工事が多いのはなぜですか？道も悪くないのに。

道路橋梁費の道路・河川がどこの道路・河川かわからない。

- ・保険の滞納が多いが（年金者は先取りで引かれているが）、とり立ては行っているのかどうか。
- ・議会報告会に関係なく、問題となっている政務調査費の改革は行っていくのですか。（後払いにするとか）
- ・松崎小は児童が減少しています。このままでは廃校になりかねない。松崎小の校区の区割を考えて港小とのバランスをとてはどうか。
- ・防災センターの建設を急いで欲しい。年寄りの多い人は避難出来ない人がいる。近くで避難できるタワーが必要と思うから。

各議員が各地区別の状況を知ってほしい。

ゴミ袋 旧広域ゴミ袋を使用できるようにしてほしい。粟野から七日市までの国道を早く改修してほしい。

議会報告会報告書

開催日時	平成 28 年 11 月 10 日（木）午後 7 時 00 分 ～ 8 時 50 分		
開催場所	茅広江地区市民センター		
出席議員	田中 力、楠谷さゆり、沖 和哉、植松 泰之、堀端 脩、 今井 一久、西村 友志		
	司会進行者	堀端 脩	
	報告者	楠谷さゆり、植松 泰之	
	記録者	沖 和哉	
参加人数	30 名		
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。		

松阪市議会議長 西村友志 様

平成 28 年 11 月 18 日

議会報告会実施要綱第 8 条の規定により提出します。

議会報告会第 1 班

代表者 田中 力

【主な質疑応答・意見等】

問 保険料の滞納状況について、滞納者が多いということだが、対応はどうなっているのか。

答 保険料の滞納については、最終的には財産の差し押さえ等も含め、厳しく対応している。それまでに、電話での催促や分納制約など丁寧に関わっており、低所得者に対しては、松阪市は所得に応じて段階的に保険料を算定しており、他市に比べて柔軟な対応となっている。

問 生活保護受給者の中には不正受給者もいると聞くが、どうなのか。また、生活保護費の額はどれだけで、受給者の人数はどれだけいるのか。

答 市として不正受給の正確な人数等は把握できていないのが現状であるが、たとえば車の所有など万が一不正受給が認められる場合は、返還請求などを行っている。生活保護費は全体で約 46 億円、市の負担は 11 億円ほどである。受給世帯は 1946 世帯である。

問 道路維持費のなかで、道路の草刈りについて、決算額が出ていたが、この地区は多気中学校までの道を自治会でも対応しており、業者は時期が遅いため特に何も作業せずに帰っていく。それでも経費は発生しているのではないのか。時期の調節はできないのか。

答 ご指摘の箇所は県道であり、市の事業ではない。時期については、一度自治会として市に要望をあげていただき、市から県と協議をしてもらう形が良いと思われる。議会としても市の担当部署にもご指摘の内容を連絡させていただく。

問 新健康センターの建設について、有害物質が出たことで工期が遅れたという新聞報道があったが、工期はどれだけ遅れたのか。また、それに伴う費用負担はあったのか。

答 フッ素の発生があったが、わずかな量であり、後日検査をした際、自然に基準値よりも減少したため、特にフッ素発生に伴う工事変更などはしていない。ただ、調査などで工期は約 3 か月遅れた。

問 人口減少や高齢化について、対策はどうしているのか。

答 旧市内の一部や嬉野三雲などでは人口が増えている地区もあり、人口増と人口減が偏在している状況である。現在、モデル的に飯南飯高地域で空き家バンク事業を実施し、転入を増やす取り組みをしている。竹上市長になり、ネウボラとして出産からの一連の流れを支援する仕組みを構築し、子育て支援事業として出生率の向上や若い世代の転入を目指している。画期的な施策ではなく、みなさんのお知恵を借りながら

対応していきたい。また、学校の統廃合や介護保険事業など様々な課題が山積しているため、ひとつひとつ議論している状況である。

問 富山で政務活動費の問題が大きく報道されているが、松阪市は問題ないのか。

答 結論として、松阪市においては不正や問題など一切ない。実情としては、議員一人あたり月額2万5千円、年間30万円が支給されている。使い道は研修や研究、資料購入などで、常に議会事務局と相談しながら活用し、厳しくチェックする仕組みになっている。領収書もすべて提出しており、私的流用などはできない。情報公開制度によって、公開することは可能。年間の使用状況は50～60%ほどの使用で、残額は市に返還される。毎年各議員および会派の収支状況はホームページと市議会だよりに掲載している。

問 1年前に図書館問題によって、市長が交代する事態となったが、今はほとんど話題になることはないが、今はどんな状況なのか。

答 前市長の提案では、図書館周辺も含めた大改修として、PFI方式という民間活力を取り入れた事業方式を目指したが、議会は図書館本体に限った改修として、従来方式で実施する方が適していると考え、PFI方式を否決した。その後、議会としては図書館改革特別委員会を立ち上げ、図書館改修について随時議論をしており、ようやく目途がつく状況である。数億円規模での改修工事となると思われる。

問 働く場所がないと人は来ないと思うが、企業誘致はどうなっているのか。

答 いわゆるMRJをつくる三菱重工の部品工場が新たに稼働し、下請け企業の組合というものができており、地元採用していくことになっている。また、中核工業団地は空きスペースがなくなり、嬉野の天花寺工業団地に1社誘致ができた。現状は民間が開発した工業団地へと誘致をすすめている。また、市役所のキャリア採用として民間企業経験者の採用や、UターンやIターンをすすめる施策を研究・実施している。

問 自治会の運営も大変なのだが、はたして必要なのか。人口も減ってきて、自治会が成り立たない地区も出てくるだろうが、どうしていくのか。

答 実際、飯南や飯高など人口の減ってきている地域は、本当に大変だと常々聞かせていただいている。ただ、人数は少ないが、飯南や飯高のみなさんの地域での結びつきは非常に強く、互いにお支えあいになっている。また、中山間地域だけでなく、駅周辺の地区であっても、自治会運営が厳しく、4自治会で統合する議論もでてきている状況である。自治会は必要不可欠な存在であると考えており、今後ともお知恵を借りながら向き合っていきたい。

問 議員定数は特に問題ないと思うが、地域によっては議員が選出できておらず、そうになると行政へ声を届けにくくなると思う。松阪市全体で考えると、議員の選出は地域に偏りがあると思うが、その点についてどう考えているか。

答 課題として認識しており、名案があればぜひ教えてほしい。意見書にもあったが、今後これ以上に定数を減らしていけば、議員一人当たりの人口が増えることになり、飯南や飯高などの人口減少地域では議員を選出できなくなる可能性も高い。議会として考えていくべきことだと認識している。ただ、議会や議員というものは、自分たちの地域だけでなく、市全体について向き合い、関わっていくべきものであると考える。

議会報告会報告書

開催日時	平成28年11月10日（木）午後7時00分～7時50分		
開催場所	橋西地区市民センター		
出席議員	久松倫生、松岡恒雄、野呂一男、大久保陽一、永作邦夫、中島清晴		
	司会進行者	永作邦夫	
	報告者	坂口秀夫	
	記録者	中島清晴	
参加人数	8名		
主な質疑応答 意見・要望等	・ 議会活動報告について説明 質疑応答 なし ・ 意見交換 なし ・ 「議員定数のあり方調査会意見書」概要の説明 意見質問等 なし 以上		

松阪市議会議長 西村友志 様

平成28年11月11日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

議会報告会第 2 班

代表者 久松倫生

議会報告会報告書

開催日時	平成 28 年 11 月 10 日 (木) 午後 7 時 00 分～8 時 45 分	
開催場所	神戸地区市民センター	
出席議員	松田俊助、米倉芳周、中村良子、山本 節、川口 保、海住恒幸、水谷晴夫	
	司会進行者	山本 節
	報告者	川口 保
	記録者	米倉芳周
参加人数	14名	
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。	

松阪市議会議長 西村友志 様

平成 28 年 11 月 18 日

議会報告会実施要綱第 8 条の規定により提出します。

議会報告会第 3 班

代表者 松田 俊助

【主な質疑応答・意見等】

問 松阪市健康センターは鉄骨構造と聞いているが、なぜ鉄筋なのか。また、鉄骨と鉄筋コンクリートの予算比較はされたのか。

答 予算比較をしたとの報告は、行政（執行部）の方からは聞いていないが、鉄骨構造の方が、合理的で施工工程が早い。また、費用に関しても明らかに鉄骨の方が安価であると考ええる。

問 この地域では、空家が多くなり問題化されている。市の空家バンクの施策があるが、その近況を聞きたい。

答 問い合わせもあり、ぼちぼちではあるが結果も出てきている。

問 幼・小・中 施設管理運営事業費 7 億円は高すぎるのではないか。

答 松阪市は学校関係施設が多く、この費用はやむを得ないと考ええる。この費用には、事務費等、様々な費用も含まれており、ご理解を願う。勿論、無駄な費用の削減努力は必要である。

問 保険料の不納欠損について、このままの状態が良いのか。また、今後、不納欠損は減っていく傾向にあるのか、逆に増えていくのか。また、それに付随して、生活保護費についても松阪市は非常に多いと聞いている。その件についてもお尋ねする。

答 厳しい状況ではあるが、説明にあったように不納欠損処理については法律に基づいて処理を行っている。減るのか、増えるのかという質問に対しては、増えていく傾向にあると考ええる。勿論、行政の担当者は滞納徴収の努力をしているが、被保険者である本人が滞納したまま死亡し、徴収不納になる場合も非常に多いと聞いている。

また、滞納者が多いのは年金等から天引きしないで、個々に納める普通徴収者が多い。生活保護費については、受給者は徐々にではあるが、年々減少傾向にある。現在、ハローワークとの連携し、本人、市職員、ハローワーク職員の 3 者が膝詰めで協議し解決する方法もとっている。

問 市民病院の薬剤の院内在庫の件で、詳しく内容を聞きたい。薬剤の品目に対して基準は違うと思うが、例えば患者に 1 本 100m l のアンプルを使用し、実際には 80m l を使って 20m l が残った場合、その 20m l は院内在庫として記録するのか。また、その患者に診療費用を請求する場合、1 本分としてのアンプル費用を請求するのか。

答 患者の体重や体調等により薬剤の使用量を調整する場合もあり、その場合に残った薬剤については適正に廃棄処分してる。従って、請求については、1 アンプル単位で請求しており、1 アンプル（10割）を使用した考えであるので、廃棄処分したデー

タは収集していない。患者の感染性などの危険、品質劣化による効能効果などといったリスクが考えられるため、分割使用などはしていない。

問 防災関係で、本年度に備蓄用食料としてフリーズドライご飯が2万食となっているが、この2万の根拠は。

答 県の南海トラフ地震による松阪市の避難想定者が5,100名から32,000名に変更された為、それについての補充を2万食ずつ年々（5年間）備蓄していくということである。

問 海上アクセスについて、この事業の計画では、当時一日600名を超える利用客想定をコンサルタント会社であるトーマツが出していたと思う。前市長であった2名の責任もあるが、市として、このコンサルタント会社に対し、損害賠償を求めることはできないのか。また、海上アクセス事業を振り返って議会としての感想を聞かせてほしい。

答 平成17年、津市なぎさ町の海上アクセスの一日利用者数は900名であった。よって、その津の運行业者が試算したところ、松阪市が海上アクセスに参入した場合、利用者数900名のうち、約300名が松阪からの利用となると想定していた。結果、開港から3年間平均の一日利用者数は、300名であった。要するにトーマツの試算は過大であったことは、確かである。しかし、その試算を信じて事業を行ったのは、市であり、議会の責任もあるのか問われれば、そうである。この責任は行政側にあるので、損害賠償を求めることはできない。

「この事業への感想は」との問いには議員個々の意見もそれぞれあり、個人的な見解となるため、お答えはできない。この場合は、あくまでも議会としての市民との意見交換の場であるため、ご容赦願いたい。

問 自治会から市へ毎年要望している事業についての市の予算は、道路維持修繕事業費に示されている3億円、これだけの予算か。また、各自治会から一つずつ要望を聞くより、名古屋川の氾濫や松阪自動車学校周辺の浸水被害等、市全体をみて、危ない所から優先的に対処するという判断にはならないのか。

答 予算については、そのとおりである。自治会からの要望された事業費総額は3億3,294円である。ご指摘の浸水被害については、市長が10年間で浸水被害ゼロにするとおっしゃっており、今後、県と連携して行っていくと思う。

意見 報告書で意見された議員定数については、妥当である。

意見 子供の教育方針についてであるが、今年、5月に東京で、小学校の運動会を参観

した。その運営に対し驚いた。東京では、松阪市のように9月の開催は非常に暑い
ため、開催を避け、5月の実施となるが、5月だと、まだ、新入生が学校生活1ヶ
月しか経てないにも関わらず、非常にキビキビと行動していたことには感心した。
そして、競技順位を決める段階になると、順位から座る、椅子に座る、立つ、一段
高いところに立つというように誰からみても順位がわかるように意識たてを行っ
ていた。「ゆとり教育」から「競争教育」への脱皮を行っている。このように育った
児童と松阪市の児童では社会へ出たときの差というものは歴然としたことになる
のではないかと。いま必要なのは、教育に対する「厳しさ」ではないかと。学力に対
しても同様ではないかと。松阪市も一考を願う。

意見 私は、「ゆとり教育」については賛成である。社会競争を教育に取り込むことは、
絶対にあってはならないと考える。児童個々の個性を伸ばす教育が正しい。学力に
おいても点数主義の教育はやめてほしい。

問 福岡でおきたような道路の陥没があったが、松阪市においての工事は大丈夫か。

答 工事においては、現在長寿命化の対策はとっているが、チェック機能を強化してい
る。

意見 議員定数は28名が妥当だと思う。

問 政務費について一つ確認をさせてほしい。費目で文書作成に係る費用は全議員の中
で海住議員しかいなく、他の議員はゼロとなっている。なぜか。

答 私個人は、議会等で提示する資料等が必要であるので、それらを資料作成費として
計上しているが、他の議員は事務費として計上している。経費申請を出す議員の費目
の認識が違う。

議会報告会報告書

開催日時	平成28年11月10日（木）午後7時00分～8時40分		
開催場所	小野江コミュニティーセンター		
出席委員	大平 勇 深田 龍 山本 芳敬 濱口 高志 松田 千代 前川 幸敏 西口 真理		
	司会進行者	大平 勇	
	報告者	深田 龍 西口真理 前川幸敏 山本芳敬	
	記録者	松田 千代	
参加人数	24名		
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。		

松阪市議会議長 西村友志 様

平成28年11月17日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

議会報告会第 4 班

代表者 大平 勇

【主な質疑応答・意見等】

問 海上アクセスは廃止となったが、これまでにどれだけの事業費が使われたのか。

また、廃止による負担は今後、どれくらいになるのか。

答 海上アクセスは、平成 17 年度から運航を開始している。今回の廃止までに約 14 億 6 千万円の事業費が投入されている。事業費用の内訳は、船舶購入費用、関係施設の建設費用、およびこれらの整備・持費用である。今後の市の負担は、市債の残額としての約 4 億円が残っている。

意見 これ以上、議員を減らされたら、我々市民の意見が伝わらないと思う。減らしてもらうのは困る。

問 政務活動費について、どのような使い方をされているのか説明してほしい。

答 研究会や研修会に参加するための経費、先進地調査・現地調査など調査研究、旅費、各種会議に必要な経費、資料作成経費、書籍や新聞・雑誌などの資料購入費、広報費、事務費などの経費である。

問 三雲管内の下水道受益者負担金はどのように決まったのか。

答 今年 2 月の定例会に、受益者負担金の改定に関する議案として上程されたが、地域への説明が不十分であるとして継続審査となった。

その後、地元説明会が開催されたので、6 月定例会で議決した。公平性を担保させるうえから負担金の算出方法は全市で統一し、受益者負担金の計算は、従来の一戸当たりでの算定から面積割の算定へ改正することが妥当であると判断し、三雲管内においても平成 29 年度から面積に応じた負担金額となる。

問 地域医療構想や総合事業ということが書かれたものを見たが、どういうことなのか。

答 地域医療構想とは、国が病院のベッド数を減らす計画を作り、三重県では 8 つの地域医療圏の中の入院ベッド数削減を 10 年かけて実施していく構想で、現在、まだ調整会議の最中である。

また、総合事業とは、介護保険制度の中で実施されていた要支援 1・2 の人へのサービスを自治体の「介護予防・生活支援サービス事業」に切り替えていくもので、来年 4 月から実施される事業のこと。総合事業の中で、多様なサービスとして NPO やボランティア、シルバー人材センター、住民協議会、自治会などが委託先として挙げられている。

意見 なるべくなら、市に責任をもって実施してもらいたい。

議会報告会報告書

開催日時	平成 28 年 11 月 11 日（金）午後 7 時 00 分 ～ 8 時 40 分		
開催場所	豊地農耕センター		
出席議員	田中 力、楠谷さゆり、沖 和哉、植松 泰之、堀端 脩、 今井 一久、西村 友志		
	司会進行者	堀端 脩	
	報告者	楠谷さゆり、植松 泰之	
	記録者	沖 和哉	
参加人数	25 名		
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。		

松阪市議会議長 西村友志 様

平成 28 年 11 月 18 日

議会報告会実施要綱第 8 条の規定により提出します。

議会報告会第 1 班

代表者 田中 力

【主な質疑応答・意見等】

問 議員定数あり方調査会の意見書について、専門家を集めたところで定数が多い少ないは、まとまりにくいだらうと考えるが、議会としてこのような調査を試みた経緯は。

また、松阪市は面積も広く、人数を減らすべきでないと考えるが、議員アンケートの中で減らすべきとの意見はどんなものがあったのか。極端に定数を減らすというのは、議会軽視であると思うが、どうか。

答 議会として第三者機関を設置したのは、今回が初めてである。松阪市議会基本条例により、設置根拠を持てたことで、今回実施することとした。他市と比較してもまだまだ設置しているところは少ない。議会としては、ゼロベースで定数を調査・検討してほしかったところであるが、意見書にもあった通り、時間的にも難しく、28人をベースに検討された。残念ながら成果への方程式はなく、地方行政を専門とする先生方が時間をかけて協議していただいた結果である以上、真摯に受け止めたい。

また、議員アンケートで定数を減らすとの意見は、最少で14人とあったが、特段根拠はなく、人数も報酬も少なくといった理論での意見であったと考えている。ただ、増やすべしとの意見も、維持すべしとの意見も、どちらも特別な理由はなく、正解はひとつではない。今後、市民の皆さまと意見交換会などを開催し、議論を深める中で議会として最終的な方向性を定めていく。

問 市がかかえる借金の利息は毎年どれだけ返済しているのか。市が赤字という中で、議員はボーナスをもらっているが、良心はとがめないのか。

答 年間で市債の利子は約5億円ほどである。市の借金というものの考え方であるが、みなさんのご家庭の家計とは違った考え方をすべきものであることをご理解いただきたい。国の交付税として戻ってくることなども考慮すると、実質公債費率もマイナス7.4%となっており、実際に返済していく額は無いと考えることもできる。経常収支比率も健全な数字となっており、公平な目で見ていただきたいと考えている。監査委員も市債残高が18億円減少している状況について、前年度と比較して向上しており、これまで市債発行を抑制してきたという状況を評価されていることも付け加えておく。

問 赤字はゼロであった方がいいと思うが違うのか。

答 約1,200億円の市債を一括で返済してしまうことが正しいのかといえば、そうではないと考える。市の予算を全て返済に充てれば、市の事業は公共事業も福祉事業もすべてできなくなり、いきづまってしまう。一般家庭の家計とは異なり、いわゆる借金をしつつ、事業を実施していくものであるとご理解いただきたい。

問 東京都は黒字だと聞くが、どうなのか。

答 東京都は全国の企業の本社があり、全国から税金が集まる形になっている。地方経済や地方自治全体の問題であると考え。もちろん、借金は多くない方がいいからこそ、無駄な借金をせずに、例えば過去の駅前再開発など無駄だと思われる事業は取り止めてきた経緯である。

問 防災関係について、備蓄食料を増やしてもらったのはありがたいが、どこに保管されるのか。また、地区の集会所が避難場所として指定されて振興局から指定避難所としてのプレートはもらったが、備蓄食料は配布されるのか。

答 基本的に小学校や地区市民センターに保管される。最終的に9万6千食を目指して整備していく。各地に分配されていくが、今後、細かい地域に対してどこにどれだけ分配されていくかは不明確であり、議会としても指摘している。行政としては的確な配備方針を整理していくとのことである。また、市の備蓄は3食1日分の食料であるため、大前提としてまずは自助として、皆さん方それぞれのご家庭や自治会で備蓄を進めてもらう必要があると考える。具体的な避難所運営や方法については、市の危機管理室に問い合わせ相談をしていただくことでご理解いただきたい。

議会報告会報告書

開催日時	平成 28 年 11 月 11 日 (木) 午後 7 時 00 分～8 時 40 分	
開催場所	櫛田地区市民センター	
出席議員	松田俊助、米倉芳周、中村良子、山本 節、川口 保、海住恒幸、水谷晴夫	
	司会進行者	山本 節
	報告者	米倉芳周、水谷晴夫、川口 保、海住恒幸
	記録者	米倉芳周
参加人数	13名	
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。	

松阪市議会議長 西村友志 様

平成 28 年 11 月 18 日

議会報告会実施要綱第 8 条の規定により提出します。

議会報告会第 3 班

代表者 松田 俊助

【主な質疑応答・意見等】

問 平成 28, 29 年の農地改良に伴う補助金の状況、支給額等を教えてほしい。

答 その質問に関しては、現時点で執行部より報告は受けてなく、調べて後ほど数字等について報告する。

問 国保事業の不納問題で、滞納額が多過ぎると思う。滞納整理はどのように。

答 国民健康保険税は 5 年、その他については 2 年滞納が続くと、法律に基づいて不納処理される。一番多いのは、滞納者本人の死亡によるものと聞いている。行政も徴収努力もしているが、納付に対し 2 割、5 割、7 割というように半減世帯が全体の 6 割を超えているという現状もある。制度そのものが、制度疲労をおこしていると考え。また、平成 30 年より保険者が市から県へ移行される。

問 大学奨学金制度で県外大学生に 3 万円、県内大学生に 2 万円を支給しているが、なぜ、県外の学生まで支給するのか。また 3 万円と 2 万円の差額の根拠は。

答 常任委員会でも同様の質問をさせて頂いた。「支給により市に有益になるようなことを考えるべきではないのか。」ということだと思うが、この制度は寄付金によるもので、寄付者の意向によるものと聞いている。差額についても寄付者との協議によるもので県外の者の方が費用がかかるとの見解と考えるが、いずれにしても内容変更については、寄付者との協議がいる。

問 幼稚園問題で、てい水幼稚園は現在、年長 10 名、他 10 名 計 20 名で存亡の危機に瀕している。現在、認定こども園という制度もでてきているが、今後この地区の動向は。

答 松阪市の中心部を除いて、飯高のような人口減少地域では同様の問題が生じている。現在、これらの問題については、あり方委員会が開催されており、来年方針が出てくると思う。

問 新健康センターの開設が 4 月となっているが、4 月のいつか。1 日なのか 29 日なのかで全然違う。

答 4 月 1 日予定である。出来るかどうかについては、別途報告する。

問 市長は「大学誘致」を宣言し、いろいろと行動されているが、現況において夢物語みたいなことをせずに、もっと現実的なことに力を注いでほしい。議員さん達も本当にできると思っていないと思う。

答 確かに大学誘致に関しては非常に難しいと思う。しかし、もし現実となったら経済

効果も多大なものになることも確かである。

問 議会が、議員定数に着目し、問題提起したそもそもの理由は。

答 これまで、議会は議員の定数を徐々に減らしてきた。現在は 28 名である。平成 24 年に議会基本条例をつくり、そのルールに則ってやってきたが、議員定数においては議員一人ひとり意見が違い、来年改選を控え、この時点で、現在の議員数は松阪市において妥当なのかどうかを、第三者の専門分野の方に意見を求めようということで、表記の先生 4 名に調査をお願いした。その結果をお示しした。

問 上川の最終処分場が満杯になってきていると聞く、その代替地として山添町にもつてくるとの噂があるが、本当か。

答 上川の処分場はまだ少し余裕があると聞いている。処分量を調整していると聞く。代替地については何も聞いていない。

意見 今年、法田町で火事があった。消火栓がないため全焼した。こういう不備があつてはならないと考える。行政の早急なる対応を願う。

意見 一部地域に水道がきていない。このことをどう考えるか。市へ要望も出しているが、解決されていない。

意見 ある地域で側溝があり、市へ「道路運行上、危ないから蓋してほしい」と常々要望していたが、改善されなかった。予算がないとのことだったようだが、このほど、それが原因で死亡事故が起きた。その後、すぐに改修された。議員は行政のこういうことのチェックもしっかり願う。

意見 議会は政策立案機能を有すると書いてあるが、この地区の空き家対策についてしっかり考えてほしい。

意見 この地域の幼稚園の廃園が問題視されているが、少子高齢化が著しい地域であるため、やむを得ないのかも知れないが、あたかも忘れられた地域であるような市政にならないようお願いする。櫛田川を挟んでこっち側には議員は一人もいない。

意見 市長がこの公民館を訪れたとき、男女別のトイレがないことに気づいた。よく見ているなど感心した。そして、男女別のトイレをつくることもその時、約束された。他の公民館も同じような施設があるようだが、今、改修計画を考えてくれていると思うが、念を押して欲しい。

議会報告会報告書

開催日時	平成28年11月11日（金）午後7時00分～8時45分	
開催場所	松尾地区市民センター	
出席議員	久松倫生、松岡恒雄、坂口秀夫、野呂一男、大久保陽一、永作邦夫、中島清晴	
	司会進行者	松岡恒雄
	報告者	永作邦夫
	記録者	永作邦夫
参加人数	14名	
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。	

松阪市議会議長 西村友志 様

平成 28年11月14日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

議会報告会第 2班

代表者 久松 倫生

【主な質疑応答・意見等】

問 大学奨学金制度を利用者で松阪市に在住又は勤めている人数は何名か。

答 把握はしているが個人情報保護で明らかにしていない。

問 保険料の滞納者の状況は。

答 高齢化で低所得者が増加し滞納者も増加している。また、郵送や訪問をし、お願いをしている。

問 滞納者への保険証はどうか、その支払方法は。

答 保険証ではなく、資格証が発行される。支払いは10割負担となる。

意見 低所得で元気な人には有料ボランティアへの紹介をしてはどうか。

意見 新規就農者に対し補助金等のハードではなく、ソフト面での支援はどうか。

意見 小中学校の校舎屋上への太陽光発電の設置をしては。

問 松阪市民病院の黒字は患者の負担する医療費だけで実質的黒字なのか。

答 医療費だけでなく、市の一般会計から9億円余り繰り出しなどもある。

問 ベルライン廃止に伴い、ターミナルの取り壊しはもったいないと思うが、残して他の利用方法はないか。

答 国・県の所有地であり、残すことはできない。取り壊し予算を可決した。

問 本会議での質問で、細かい数値的なことは委員会でやるべきだ。

採決に於いても、一議案ごとでなく一括で採決をし、採決の簡素化を図ってはどうか。

答 一般質問は、議員個々のやり方があるので、意見として受け止める。議会としては、予算説明会を会期前にやり簡素化を図った。ルール上、人事案件は各案件ごとに審査採決する。

問 政務活動費の実情とは。

答 松阪市の場合議員一人月2万5千円で年30万円支給される。その執行率は27年度で58.8%で残ったら返す。視察研修費・会議費・調査費等で、個人にではなく会派に支給され、中身についてはホームページで公表をしている。視察研修の復命書は会派で出している。

意見 道路の白線の要望で、中央線と横断歩道で要望先が違うが一括できないか。
道路工事においてもガス・水道・下水道等を一括にしてほしい。

問 議員報酬を第三者機関で判断をする出来高払いはどうかとの意見があるがどうか。

答 その方の意見だと受け止める。現在は報酬等審議会での答申に基づいて決定する。

意見 議会報告会への参加人数が少ないが、参加者が増えるよう工夫をお願いしたい。

議会報告会報告書

開催日時	平成28年11月11日（金）午後7時00分～8時50分		
開催場所	大石地区市民センター		
出積議印	大平 勇 深田 龍 山本 芳敬 濱口 高志 松田 千代 前川 幸敏 西口 真理		
	司会進行者	大平 勇	
	報告者	深田 龍 西口真理 前川幸敏 山本芳敬 濱口高志	
	記録者	西口真理	
参加人数	16名		
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。		

松阪市議会議長 西村友志 様

平成28年11月17日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

議会報告会第 4 班

代表者 大平 勇

【主な質疑応答・意見等】

問 財政状況判断について、市債残高は減り、財政調整基金は増え、良い状況に見えるが、現状と今後はどう考えるか。

答 現在は良い状況であるが、来年度以降、大型事業が増えていくので財政調整基金は減っていく見通しである。慎重な財政運営が必要。

問 被害備蓄食料は一括備蓄されているのか。地区での備蓄はされるのか。

答 避難者想定が約5千人から3万人に増えたので、10万食を目標に5年計画で進めている。一括備蓄ではなく、各避難所に振り分ける。詳細は決まっていない。

問 保険料滞納状況のここ数年の推移、増減の状況は。

答 国保の場合、低所得者に対する軽減措置も行われ、軽減世帯が増加している等の状況もあり、単純に比較は出来ないが、右肩上がりに増えている事はなく横ばい状態である。しかし、生活困窮などのため滞納者が多い状況は続いている。

問 市民病院の決算について、一般財源からの市税繰り入れは怎么样了のか。

答 平成27年度は9億4,548万円。法定内の繰り入れで、特に問題視しなかった。

問 道路維持修繕事業費のうち草刈り委託はどんな内容か。

答 9件の具体的な場所は今分からないが、市道のうちで、維持管理上必要と思われるものを業者に委託したものである。

問 合併からの経過は。どういう経過で28名になったのか。

答 平成17年1月の合併時は82人、平成17年7月の選挙より34人、平成21年は30人、平成25年は28人と見直されている。

問 政務活動費は、どのような状況で現金精算しているのか。

答 松阪市では、個人に現金は入らず、会派へ入っている。政務活動費の執行状況はホームページで公開されている。

問 生活保護・介護認定が松阪市は甘く、他市町から移って来る人が多いと聞くが。

答 生活保護認定には基準があり、松阪市だけ甘いという事はない。ただ、松阪市は他所よりしっかりと話しを聞き、その人の状況を見て丁寧な対応がされている。介護認定についても、国の基準がある。認定調査員の取り組みが手厚いためそう思われるのではないかと。周りの町から移っている現状があるのは、町では窓口が県、市は身近

で相談出来るという事情があるためではないか。

意見 議会での質問に関して、自ら作成する力がなく職員に相談している議員があると、元職員から聞いた。議員の質に問題があるのではないか。各会派でもっと勉強して欲しい。

意見 学校での道徳教育の導入を議会としても取り上げて欲しい。

意見 一般質問の項目が多く、うわべだけの質問になっている。質問事項を絞り、深く突っ込んだ質問をすべきである。

意見 地域的な問題として、小規模太陽光発電、風力発電の問題、防災、土砂災害について、議会としても取り組んでいただきたい。

議会報告会報告書

開催日時	平成 28 年 11 月 14 日（月）午後 7 時 00 分 ～ 8 時 45 分		
開催場所	松ヶ崎地区市民センター		
出席議員	田中 力、楠谷さゆり、沖 和哉、植松 泰之、堀端 脩、 今井 一久、西村 友志		
	司会進行者	堀端 脩	
	報告者	楠谷さゆり、植松 泰之	
	記録者	沖 和哉	
参加人数	23 名		
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。		

松阪市議会議長 西村友志 様

平成 28 年 11 月 18 日

議会報告会実施要綱第 8 条の規定により提出します。

議会報告会第 1 班

代表者 田中 力

【主な質疑応答・意見等】

問 議会内での議員からの質問に対し、市の職員からの答弁が曖昧で検討するというような回答が多い。もっと議員から追及するなり方向性を確定させるなりしてほしい。

答 議員によって様々だと思うが、様々な質疑や意見を通して、より深い議論を進めていけるよう、議会も取り組んでいきたい。

問 道路橋梁費用について、国の補助金が減額されたとのことだが、事業はどうなったのか、次年度に取り組んだのか、市の負担でやったのか。エンドレスに先送りすることなく、しっかり議会からも発信してほしい。

答 一般的に、国が半分負担でし、県と市が25%ずつ負担することが多い。国への予算要望を行っても減額されることも少なくないが、市単独でできる場合も少ないため、補助が認められるまで先送りすることが多い。市単独でやればよいという声もあるが、市の負担額が多額になるため、難しいとも考える。松阪選出の国会議員もいるため、県や国会議員とも連携して取り組んでいく。

問 国保事業について。被保険者負担をどう減額していくのか、実施できているのか。

答 国への財政支援について取り組むよう指摘しており、今後、次年度にどのような対応をしていくのか、できたのかを確認、追求していく。

問 学校運営の温度管理について、「ピーク時の測定も必要」との答弁だけでなく、実際に対応しているのかどうか、議会も確認できているのか。孫が小学校に通っており、夏は本当に体調が心配である。

答 昨年度中にも指摘しており、今年度から測定は実施されている。その後、温度管理について具体的な改善対応も含めて、今後も議会として引き続き指摘していく。学力向上が問題となっているが、前提として学校環境の整備が必要と考えており、取り組んでいく。

問 農業費。新規就農者への補助金の額の根拠は何なのか。このような少額補助では新規就農者など増えないと思うが、どうなのか。農業委員会でも新規就農者のことは議論になるが、みな心配している。JAからの補助は大口農家ばかりが受託するため、どうにかならないのか。

答 国からの補助であるため、国が基準を決めており、市は決められない。TPPも含め、今後国レベルとしても未確定のところが多い。国の動向も含めて検討していくべきであるが、現状としては市の対応も精一杯であるところもある。十分だとは考えにく

いため、議会としても市にしっかりと指摘していく。

問 ケーブルテレビでの録画放送について、時には夜 22 時をまわることも少なくない。テレビ会社との兼ね合いもあるだろうが、時間調整をもう少し早めてもらうよう要望してほしい。また、各議員がまじめに取り組んでもらってることは理解してるが、人のあげあしを取るような議員や物言いの荒い議員がおり、残念である。議長から注意喚起を願いたい。

答 テレビ放送については一度状況を確認して、ご要望に対しては意見として承る。議員それぞれの技量や考え方もあり、議長としてどうにかするというのはなかなか難しい。議会全体の向上を目指して、個々で精進していきたい。

意見 定数について、現状を維持してもらいたい。人数は県内で 4 番目に多いというが、歳費は県内で 2 番目に少ない額であり、何ら問題ないように思う。

意見 議員定数に関しては減らしてはどうか。現状、松ヶ崎や黒部など、議員を選出していない地域もある。地域の声をくみ上げるというが、地域選出の議員がいない中で、結局一緒ではないか。だとしたら、委員会を 2 つに合同して、定数を 24 人ほどに減らしてもいいのではないか。

問 市の防災訓練について。重要なことであり参加もさせてもらったが、待ち時間が長すぎて疲労する。もっと実際に合わせてキビキビしたスケジュールにしてほしい。人件費もかかるだろうし、検討してほしい。松阪市の防災対策は弱すぎるのではないか。

答 議会でも随時協議し、指摘をしているところである。他市の訓練へも担当部署の幹部職員に視察に行くよう意見し、今年度対応された。今後も引き続きしっかりと指摘し、取り組んでいく。

問 議員定数については、過去の 36 人から削減されてきた中であり、現状の数字で適しているのではないかと考えている。個々の議員にも地域性はあると思うが、議長が新聞取材で話されたように、「議員は市全体をみて関わるべき」であるとの意見にも賛同する。個々の議員がなぜ減らすのか、なぜ増やすのか、といった根拠や意見を市民に提示してもらえるような仕組みも構築してほしい。

答 議会として自分たちのことを自分たちだけで決めるのではなく、専門家もふくめて協議していきたいと考えて、松阪市議会として初の今回の調査会設置となった。今後、市民の皆さんの意見をよりたくさん聴かせていただきながら、しっかりと検討してまいる。また、議員定数に関する意見交換会等も開催していきたいと考えている。

議会報告会報告書

開催日時	平成28年11月14日（月）午後7時00分～8時39分	
開催場所	有間野集会所	
出席議員	久松 倫生、松岡 恒雄、坂口 秀夫、野呂 一男、 大久保 陽一、永作 邦夫、中島 清晴	
	司会進行者	大久保 陽一
	報告者	坂口 秀夫
	記録者	松岡 恒雄
参加人数	24名	
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。	

松阪市議会議長 西村友志 様

平成28年11月17日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

議会報告会 第2班

代表者 久松 倫生

【主な質疑応答・意見等】

問 議員の質問について行政（市長部局）が検討した結果について、どのようになったのか、そのところを聞かせてほしい。

答 決算の審議を報告させていただいている。審議のポイントの説明とその結果、全体として「決算を認めた」ということである。

問 松阪市民病院の黒字について、建物の減価償却費は含まれているのか。

答 補助金、交付金、一般会計繰入れ、医療費等、また借金返済等、全て含めて黒字である。

意見 保険料の滞納状況について報告があったが、今後高齢化とともに増加が予想されるため負担増について不安に感じている。財政支援に留意してほしい。

意見 潜在専門職トレーニング事業についてもっと多くの方の復職を促進してほしい。

意見 幼・小・中施設管理運営事業について、エアコン設置を検討してほしい。

意見 保護者、PTAの出費でエアコンを取り付けた事例が過去にあった。行政への要望の他に、保護者への働きかけも議会を通じて行ってほしい。

問 歳入における固定資産税について、中山間地域の実勢価格と名目価格の乖離が見られる。大事な財源であり、この現実をどのようにされていくのか。

答 余りにも差異が生じている、即ち税金が高いということ。ここが崩れると市財政がとんでもない状況となる。時間をかけてでも調査していく。

問 新規就農者総合支援補助金の水田活用推進対策補助金一麦や大豆の作付け支援の10アールあたり500円は何のためにあるのか。関連して、多面的技能支払交付金で畑は何故除外されているのか。

答 10アールあたり500円の根拠について、理事者当局に確認をする。また畑については余り議論に及んでおらず、何らかの理由があるため調査していく。

問 海上アクセスの反対、賛成の理由を教えて。

答 反対は「代替バスの運行委託料1,085万円について、ムダ、根拠がない」、賛成は「代替バス運行が、松阪市への信頼信用を取り戻せる事業である」というものである。

問 地域振興局のあり方について、どのように考えているか。

答 2017年4月に少し大きな改革、振興局のあり方について計画されている。庁内検討委員会を作り議論してきた経緯がある。地域振興予算について地域の声はしっかり伝えていく。地域が切り捨てになってはならないということだけは、議会として統一した意見である。

問 飯南中学校体育館の雨漏りについて認識されているか。

答 学校と教育委員会へ要望していないのか。また要望しにくいのか分からないが、行政へ伝えていく。

意見 中山間地域農地の規制改革をしてほしい。

意見 飯南町には公民館が一カ所。公民館行事まで住協が実施している。予算が厳しい中公民館事業に縛られている。住協存続が厳しい、何とかしてほしい。

意見 議員定数について10年間で6名減らしていただいた。これ以上の減少は地域にとっても無理な所も出てくる。28名の議員の方々が本当に市民のために積極的に今まで以上の活動をしていただけるよう要望する。

議会報告会報告書

開催日時	平成 28 年 11 月 14 日 (木) 午後 7 時 00 分～8 時 45 分	
開催場所	飯高総合開発センター	
出席議員	松田俊助、米倉芳周、中村良子、山本 節、川口 保、海住恒幸、水谷晴夫	
	司会進行者	山本 節
	報告者	米倉芳周、水谷晴夫、川口 保、海住恒幸
	記録者	米倉芳周
参加人数	29名	
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。	

松阪市議会議長 西村友志 様

平成 28 年 11 月 18 日

議会報告会実施要綱第 8 条の規定により提出します。

議会報告会第 3 班

代表者 松田 俊助

【主な質疑応答・意見等】

問 消防ホースを新しく購入したとのことだが、こういう練習ホースが他に古くなった物があると思う。地元の消火栓用として使いたいのでは払い下げはしてもらえないのか。

答 払い下げはできない。但し、ある程度の修理は可能であると担当者から聞いている。そういう方法もあるのでは。

問 議会報告会への市民の参加が少ないと聞いている。今回の報告会でも参加者が1名しかいない箇所があったとのこと。こういう事態を議員はどう考えているのか。市民の関心が薄いということであろうが、これらは議員の責任でもあると考える。

議員は住民の代表であるのに住民の声を反映していないのではないか。そのような状態であるなら、議員は100人いても足りないということになる。

また、現在、市職員は1,400名いると思うが、アンケート調査で、80%の職員が「自信と誇りをもって職務にあたっている」とのデータがあるが、逆に殆どの職員が慣習に沿って業務を行うという意識調査の結果もある。要するに職務に誇りはもっていても新しいことには手をつけないということである。今、市は行財政改革を行っていると思うが、これについても旧松阪を除く4旧町への補助金が削減対象になっているようである。それは、高齢化というより老齢化が進む、ここ中山間地区では、活性化という意味においても大変残念である。

答 確かに「老齢化」が進んでおり、若者がいない地区において、若者を呼び込む施策をつくらなければならないと考える。

旧4町においては、下水道事業、教育事業も縮小傾向にある。市職員の裁量というか、価値観の相違で施策が変わっていくこともある。地域のまつり等の補助金についても、もっと地域から声を出してもらおうと思う。

新しい独自の発想をもって業務を行え。ということであろうが、市職員の業務に関しては、国、県の機関事務が主な業務となっている。また、縦割り体制であり、市民の顔が見えにくい業務となっているのが現状である。そのことも理解願いたい。地域への補助金に関しては市へ伝える。

問 報告書では、人口割りによる定数がだされているようであるが、この考え方は、参議院議員の島根県と鳥取県の合同1人区の考え方と一緒に思う。市の議員活動を考えるとそうであってはならない。

28名は妥当であり、この定数以下だとこのような山間地域が大変なことになる。報告書のように人口割りで結論は、1票の格差の観点からであろうが、言い換えれば「費用対効果」と同じ発想ではないか。

答 議員定数や議員歳費は、議員自身が決める。要するに議会で決めることに法律で決まっている。よって、平成 24 年に議会基本条例というものをつくり、広く意見を求めることに努めてきた。今回の調査、意見書は初めての試みである。この報告書はこれから議論していく叩き台に過ぎない。

常任委員会の意見がでたが、常任委員会の人数に関しては、1 委員会、現在 7 名だが、この 7 名は理想であるとする。しかし、4 委員会が必要かという点、それなら「3 つならどうか」等、これから議論が必要になってくる。選挙制度においても同様で、一つの考え方として、「人口当たりで考えるのか」というより小選挙区での発想もある。今日まで深まった議論はされていない。よって、市民にももっと声をこちらへ届けてほしい。

問 この報告書は、私でも書ける内容である。人口、面積、常任委員会の三点に関してしか検討されていない。このような観点からの定数提案なら意味がない。

寧ろ聞きたいのは、議員の意見である。議員の考えは。

答 定数についての議員個人への考え方の質問は、ご容赦願いたい。今回は議会としての報告会であり、議会としての結論はこれからであるので、ご理解賜りたい。

意見 議員定数は、現行のままでも良い。言いたいのは、議員一人ひとりの良識のある判断に委ねる。

問 小選挙区制の話がでたが、市議会選挙において、将来、その状況をつくるのが可能なのか。

答 あくまでも、一つの考え方を示した。例えば、市を人口割りではなく区画割り、地域割りにし、この区に何名、この地域に何名というような状況が作ればということである。可能かという点、現在では非常に困難と考える。

問 この地区にある BG のプールだが、県の方針ということで、市教育委員会がプールの屋根を撤去した。屋根がないため虫や蛙の被害が発生している。早く元に戻してほしい。

答 どうして屋根を撤去したのか判らないが、この件については教育委員会へ伝える。

問 この地区のライスセンター付近の道路からこの施設付近の道路まで狭く、かなり危険であり、対処願う。また、郵便局前の新しい道路と旧道との境目の無用なガードレールの撤去も願う。

答 国道 166 号線沿いの土地に関しては、現在評価替えを行っており、用地確保がされていれば、早期の拡張工事は可能かも知れないが、そうでないと日はかかる。予算の

タイミングもあるので、地元県会議員にも意見してほしい。

問 今回の報告会に際し、広報無線での案内がなかった。なぜなのか判らない。案内があれば、もっと参加者があったのではないか。

答 広報については、この会場に振興局職員も来ているので、今後は善処して頂けると思う。

議会報告会報告書

開催日時	平成28年11月14日（月）午後7時00分～8時40分		
開催場所	朝見地区市民センター		
出席議員	大平 勇、西口 真理、深田 龍、山本 芳敬、濱口 高志、松田 千代、前川 幸敏		
	司会進行者	大平 勇	
	報告者	深田 龍	西口 真理 前川 幸敏 山本 芳敬 濱口 高志
	記録者	深田 龍	
参加人数	12名		
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。		

松阪市議会議長 西村 友志 様

平成28年11月17日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

議会報告会 第4班

代表者 大平 勇

【主な質疑応答・意見等】

問 幼稚園と小学校と中学校の管理運営管理費に約7億円もかかっているが、その内訳は。

答 市内の全幼稚園や小学校や中学校にかかる光熱費、人件費、消耗品等である。

問 新健康センターはなぜ鉄骨づくりなのか。

答 専門的な立場からは答弁できないが、執行部で十分協議され提案された内容を可決した。

問 海上アクセスの廃止をもっと早くに検討すべきだったと思うが、見解は。

答 県から補助金を受けており、事業は10年間継続しなければ補助金を返還しなければならない。本年12月19日で丸10年であるため、廃止の判断をした。

意見 議員定数28名は7名4委員会制で数合わせなのか。24名が妥当だと思う。

問 政務活動費が年間30万円と良心的にやっているように感じるが、それを超える場合は自腹なのか。

答 30万円を超えた場合は、各自で払っている。

問 政務活動費で、どんな調査をしてきたのか。

答 内容については多岐に渡るため、松阪市のホームページで各議員や会派の使い方については掲載しているので、そちらをご覧ください。

問 防災の関係でアルファ化米、いろんなものが危機管理室に送られてくる。収納を全然考えていない。市民センターの倉庫、事務所内、和室、バラバラに置いている。もしもの時に、そんなバラバラでいいのか。

答 議会のなかでも質疑した。備蓄品を収納できるスペースについても大きな課題として認識しており、貴重なご意見として頂戴すると共に執行部に対策を求めていく。

問 看護師・介護士、全国的に看護師はどんどん辞めていく。国は一定の補助金を出しながら待遇改善をしようとしているが、それが各自に行き届いているのか疑問。行政から各個人に分配することは可能か。

答 ご意見として頂戴する。

問 職員定数が減っている。減った分をどうやってカバーしているのか。より専門的な

業務が増えてくるのではないか。

答 職員定数については、計画的に減らす方向性から、必要などころには職員を採用するという方向性になってきている。具体的なことでいえば、キャリア採用が行われている。

問 松阪市の職員の数、非常勤の数は1,100人、正規が1,859人。職員の数が多いと思う。職員課によると毎年、30人減らしているということだが、もっと減らして欲しい。

答 組織として考えた場合に全く採用しないということは難しい。退職されていく数に対して、少ない割合の数を計画的に採用している。

問 地域包括ケアセンターは5ヶ所でやっていけるのか。

答 中学校区に1ヶ所は必要と制度では書いてある。最低10ヶ所はないと面的に対応することはできないのではないかと危惧している。包括支援センターの職員を増やせという意見を言ってきた。一昨年から昨年にかけて職員は微増している。